よい〳〵病

風病

御附札、願之通、月代可被致候、

〔俚言集覽 與〕よい〳〵病　此は、近頃の鄙語也、癈疾を云、

〔半日閑話十〕一世俗にヨイ〳〵と云病有、俄に中風の樣になるを云、是も蘭書にあり、東方百年來有、奇病ぺり〳〵と云よし、玄厚の說、內科選餘扉病部

〔醫心方三〕風病證候第一

黃帝大素經云、風者百病之長也、至其變化爲他病也、無常方、楊上善云、百病因風而生、變爲万病、又云、人之生也、感風氣以生、其爲病也、因風氣爲病、又云、九宮經曰、冬至之日太一至坎宮、天心應之以風雨、其風從太一所居鄉來向中宮、名爲實風、長養万物、若風從南方來向中宮、爲衝、後來虛風賊傷人者也、

素問經云、千病万病無病非風、

〔本朝醫談〕むかしの物語をよむに、風の心地といへる詞あり、是は諸病の因は、風寒なりとくすしがいひたるが、世人にうつりて、凡病は風より起るものと心得たるやうに見ゆれども、斯邦に一種かぜといふ症あるなり、唐土人のいふ風とは異なり、其異なる事は、治療の異なるにて知べし、榮花物語、長德元年、關白殿御心地あしく、御風にもなどおぼして、朴などまゐらすれど、おこたらせ給はず、加茂保憲女集、足曳の病やむてふほゝの皮吹寄風はあらじとぞ思ふ、是ほゝの木の皮を用て愈る病ありて、是を風といふなり、本草厚朴にいひ傳へたる主治に拘はらずこれを用て、斯邦の風といふ病はなほるなり、又病因を物の怪のやうにいへるは、佛學の世に行はれて、釋氏鬼病の說の世上に弘まりたるにあらず、總てまじなひ祈禱して本腹する症は皆鬼病なり、其外は多く飲食より起る病なり、故に唐土の古人も、病因に鬼食をいへり、左傳、醫和曰、非鬼非食、

〔春秋左傳註疏四十一昭公〕元年、晉侯求醫於秦、秦伯使醫和視之、曰、疾不可爲也、是謂近女室、疾如蠱、非鬼非食、惑以喪志、註、惑女色而失志、疏、正義曰、此說公病之狀、病有鬼爲之者、有食爲之者、此病○中略　淫生六疾、六氣曰陰陽風雨晦明也、分爲四時、序爲五節、過則爲菑、陰淫寒疾、陽淫熱疾、風淫末疾、雨淫腹